

# 心に残る文化財子ども塾 益田市立安田小学校

## 1. 活動の概要

7月14日(火)、益田市立安田小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに、子どもたちは体験活動の「勾玉づくり」と関連して、小学校のまわりにある遺跡、特に古墳時代の遺跡について地図を見ながら県古代文化センター職員の話の聞きました。国指定史跡の大元古墳(1号墳)が大きさ85mもあり、石見地域では最大級の古墳であることなどを学んでいました。

続いて、小学校近くの遺跡等から出土した土器について、実物を見ながら職員の説明を受けました。土器が食事の調理や保存などに使われていたことを知った子どもたちからは、「土器で米とかをたいてみたい」「土器を作ってみよう」といった感想が聞かれました。

次は「勾玉づくり」の体験です。人物埴輪が身につけた勾玉など、様々な石材からつくられた玉のアクセサリーの話の後、子どもたちはまず四角い素材の荒削りからとりかかりました。つくり始めると思ったよりたいへんだっらしく、特に角ばった部分を削り落して丸みをつけることが難しかったようで、子どもたちは職員に尋ねながら素材の形を整えていきました。仕上げでは3種類の紙やすりを使い分けながら磨いていき、表面をなめらかにします。時間の制約もあって完成には至りませんでしたが、子どもたちの多くは楽しみながら「勾玉づくり」を体験していました。

## 2. 活動の様子

### 1) 安田小学校周辺の遺跡や見つかった土器について知る



「近くの大元古墳は石見で一番大きな古墳です」



「土器の内側の黒い部分は、使っていたあとです」

### 2) 勾玉づくりの体験



「このように角を落として、丸く仕上げてみましょう」



「紙やすりで表面を滑らかにみがこう。あと少し！」

### 3. 子ども塾を終えて

#### 1) 児童の皆さんから…

- ・ぼくの家のちかくのところにいせきがあったなんてはじめてでした。あの地図は益田のところだけだったから次は、島根県のどこに(遺跡が)あるのかを知りたいです。
- ・益田市にもたくさん古墳があることが分かりました。益田市の古墳には、どんな人がいたのかが知りたいです。
- ・一つの土器から、(やけあとや大きさから)その時のくらしや、どんなことに使っていたか分かるのがおもしろかったです。特に、にたきに使ったものの説明がおもしろかったです。
- ・ぼくは、勾玉は一つの石から色をぬっていろいろできるとおもっていたら、その色せんような石があつてびっくりしました。
- ・勾玉を作るのはむずかしかったけど、自分なりの工夫をしてすてきな勾玉をつくるのは、たのしかったです。
- ・勾玉の作り方がおもしろいむずかしくて、昔の人は私たちみたいがいい道具もないから「もっとむずかしかったのかなあ〜」と思いました。
- ・やすみじかんやあいた時間に勾玉をみんなでツルツルにしています。

#### 2) 担任の先生から…

- 講話と活動のバランスが良く、最後まで集中して取り組むことができました。
- 自分達の身近な遺跡のお話だったので、地域のすばらしさを再発見できたと思います。
- 子ども達も言っていました、もう少し時間があるとよかったです。でも3時間は多いかなとも思うので、2時間+休み時間(20分)くらいでしょうか。
- 打ち合わせも準備もとても丁寧で分かりやすかったです。子ども達も大変喜んでいました。

#### 3) 埋文センターから

安田小学校の近くには、鵜ノ鼻古墳群や大元古墳など特色ある古墳時代の遺跡がいくつもあります。その一つから実際に出土した土器をみて、「さわりたい」「自分も作りたい」という感想を聞かせてもらいました。児童の皆さんには、身のまわりの遺跡や土器への興味・関心をより深めてもらえたようですね。

勾玉づくりを始めると、皆さんが集中して取り組んでいることに感心させられました。寄せられた感想にあったように、今回よりも固い石材を材料として勾玉を仕上げた昔の人々の技術や労力は、相当なものだったと思います。今回の土器を見たり、勾玉づくりをした体験をきっかけに、それらを物語る古墳や土器・玉について考えてみてもらえたらと思います。